

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
国語		文学国語	文学国語		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	一斉	
履修条件		2・3年次継続履修			
教材名・副教材名		文学国語（東京書籍） 頻出漢字マスター3000（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
指導到達目標		<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>1.生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>2.深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。</p> <p>3.言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>			
講座内容		<p>○情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>○文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。</p> <p>○文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引きつける独創的な文章になるよう工夫する力を身につける。</p> <p>○文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える能力を育成する。</p> <p>○人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとし、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○定期考査</li> <li>○小テスト</li> <li>○課題の点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○定期考査</li> <li>○課題の点検</li> <li>○発表態度の観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○発表態度の観察</li> </ul>	

# 年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	1 随筆 2 小説1 3 評論1 4 小説2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○随筆につづられている筆者の感じ方や思いを読み取り, ものの見方を広げる。</li> <li>○登場人物の心情を表現に即して把握し, 主人公の内面と苦悩について考える。</li> <li>○評論に述べられた内容を的確に理解し, 「言葉」の意義や特質について考える。</li> <li>○小説を読み, そこに込められた寓意や描かれた人々の姿から, 生きることへの考えを深める。</li> <li>○詩歌や俳句と, 俳句に関する評論を読み, 詩歌の表現の特色を理解して味わう。</li> <li>○小説における場面展開や, 人物の性格・心理の描写を読み取る。</li> <li>○具体例や引用と筆者の主張との関係に注意して評論を読み, 文学の価値や意義について考える</li> <li>○物語の展開や状況の変化に注意して小説を読み, 現代の社会や自らの生活を捉え直す。</li> </ul>
	第2回		
	第3回		
後 期	第4回	5 詩歌 6 小説3 7 評論2 8 小説4	
	第5回		

\* 年間指導計画は予定であり, 変更がある場合には, 連絡します。

## 指導と評価

教科名	科目名	講座名(校内名称)		単位数
公民科	公共	公共		2
履修学科	履修年次	期	履修形態	
家政科	2	通期	一斉	
履修条件				
教材名・副教材名	高等学校公共（第一学習社） フォーラム公共（とうほう）			
指導到達目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
講座内容	<p>○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、論理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>○現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>○よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から論理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	○資料を通し、現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。	○探究的な活動を通して、他者の考えを踏まえたり取り入れたりして、考えたことを再構築しながら議論することができる。その活動を通して、よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法	○定期考査 ○小テスト ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○小テスト ○提出物 ○授業参加の態度	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前     期     後	第1回     第2回     第3回     第4回     第5回	第1編 公共の扉 第2編 自立した主体としてより社会の形成に参画する私たち ○主題1 法や規範の意義と役割 1 私たちの生活と法 2 法と基本的人権 3 自由・平等と法・規範 4 法をよりよく変えていくために ○主題2 契約と消費者の権利・責任 1 様々な契約と法 2 消費者の権利と責任 ○主題3 司法参加の意義 1 裁判所と人権保障 ○主題4 政治参加と公正な世論の形成 1 選挙の意義と課題 2 政治参加と世論形成 3 国会と立法 4 内閣と行政の民主化 5 地方自治と住民の福祉 ○主題5 国際社会と国家主権 1 国家と国際法 2 国境と領土問題 3 国際連合の役割と課題 ○主題6 日本の安全保障と防衛 1 平和主義と安全保障 2 核兵器の廃絶と国際平和 ○主題7 国際社会の変化と日本の役割 1 今日の国際社会 2 人種・民族問題と地域紛争 3 国際社会における日本の役割 ○主題8 雇用と労働問題 1 私たちと経済 2 労働者の権利と労働問題 ○主題9 社会の変化と職業観 1 技術革新の進展と産業構造の変化 2 企業の活動 3 農林水産業の現状とこれから ○主題10 市場経済の機能と限界 1 市場経済の経済運営 2 市場経済のしくみ 3 経済発展と環境保全 4 経済成長と国民福祉 ○主題11 金融の働き 1 金融の意義や役割 ○主題12 財政の役割と社会保障 1 政府の経済的役割と租税の意義 2 社会保障と国民福祉 ○主題13 経済のグローバル化 1 国際分業と国際貿易体制 2 国際収支と為替相場 3 経済のグローバル化と日本 4 地域的経済統合の動き 5 国際社会における貧困や格差 6 地球環境問題 7 資源・エネルギー問題 8 国際社会のこれから	○公共的な空間において、社会に参画するための自立した主体となることの意義を考える。 ○法を通して、身の周りの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決について考察する。 ○対等な当事者間の合意にもとづく契約がなぜ必要なのかを理解する。 ○個人や社会の紛争を法に基づいて解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。 ○民主主義を推進するために、私たちが果たすべき責任・選挙の意義や課題、世論の形成や政党の役割や主権者である国民と国会・内閣の関係、地方自治の役割を理解する。 ○主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解し、現在生じている領土問題の背景と現状・国際連合の取り組みを考える。 ○日本国憲法の平和主義の下、日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解して、軍縮に向け私たちには何が必要かを考える。 ○国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解し、人種・民族問題と地域紛争の背景・現状を踏まえ、私たちに何ができるかを考える。 ○経済的意思決定が将来の選択に繋がることを考察し、労働問題や社会の変化の背景を理解する。 ○グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどのように考えていけば良いかを考える。 ○需要・供給の関係を通し、公正で自由な資源配分を実現できるしくみを理解する。経済活動から、私たちが豊かに暮らすための指標について考える。 ○金融市場や中央銀行が日本経済にどのような役割を果たしているかを理解し、投資の意義を考える。 ○少子高齢化が進む中、財政や社会保障を持続可能なものにするために政府はどのような役割を果たしていくべきか、その課題を含め考える。 ○経済のグローバル化や、地域経済統合の動きを通して、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきかを考える。 ○持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立する主体となることに向けて、幸福・正義・公正などに着目して現代の諸課題を探究する。
		○公共的な空間において、社会に参画するための自立した主体となることの意義を考える。 ○法を通して、身の周りの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決について考察する。 ○対等な当事者間の合意にもとづく契約がなぜ必要なのかを理解する。 ○個人や社会の紛争を法に基づいて解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。 ○民主主義を推進するために、私たちが果たすべき責任・選挙の意義や課題、世論の形成や政党の役割や主権者である国民と国会・内閣の関係、地方自治の役割を理解する。 ○主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解し、現在生じている領土問題の背景と現状・国際連合の取り組みを考える。 ○日本国憲法の平和主義の下、日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解して、軍縮に向け私たちには何が必要かを考える。 ○国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解し、人種・民族問題と地域紛争の背景・現状を踏まえ、私たちに何ができるかを考える。 ○経済的意思決定が将来の選択に繋がることを考察し、労働問題や社会の変化の背景を理解する。 ○グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどのように考えていけば良いかを考える。 ○需要・供給の関係を通し、公正で自由な資源配分を実現できるしくみを理解する。経済活動から、私たちが豊かに暮らすための指標について考える。 ○金融市場や中央銀行が日本経済にどのような役割を果たしているかを理解し、投資の意義を考える。 ○少子高齢化が進む中、財政や社会保障を持続可能なものにするために政府はどのような役割を果たしていくべきか、その課題を含め考える。 ○経済のグローバル化や、地域経済統合の動きを通して、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきかを考える。 ○持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立する主体となることに向けて、幸福・正義・公正などに着目して現代の諸課題を探究する。	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
数学		数学Ⅱ	数学Ⅱ		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	習熟度別	
履修条件		数学Ⅰを履修していること。			
教材名・副教材名		新 高校の数学Ⅱ (数研出版) ポイントノート数学Ⅱ (数研出版)			
指導到達目標		いろいろな式、図形と方程式および三角関数の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。			
講座内容		<p>1 「複素数と方程式」 数の範囲を複素数にまで拡張し、2次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。</p> <p>2 「図形と方程式」 座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>3 「三角関数」 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<p>○いろいろな式、図形と方程式および三角関数の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p>	<p>○数の範囲や式の性質に着目し等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を身に付けている。</p>	<p>○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。</p> <p>○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。</p>	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○定期考査</p> <p>○確認テスト</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○課題</p> <p>○行動観察</p> <p>○ワークシート</p>	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 複素数と方程式 第1節 式の計算 1. 式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 分数式の計算	○多項式の乗法・除法および分数式の四則演算について理解できるようにする。
	第2回	第2節 複素数と方程式 4. 複素数 5. 2次方程式の解と判別式 6. 解と係数の関係 7. 多項式のわり算 8. 因数定理 9. 高次方程式	○数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の計算ができるようにする。また、複素数を用いて、2次方程式やその解についてより一般的に考察できるようにする。
	第3回	第3節 式と証明 10. 等式の証明 11. 不等式の証明  第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。  ○座標や式を用いて、直線の性質や関数を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
後 期	第4回	第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 軌跡	○座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、それらの有用性を認識する。図形を与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、事象の考察に活用できるようにする。
	第5回	第3章 三角関数 1. 三角比 2. 一般角 3. 三角関数 4. 三角関数の相互関係 5. 三角関数の性質 6. 三角関数のグラフ	○角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
外国語		英語コミュニケーションⅡ	英語Ⅱ		4
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		<ul style="list-style-type: none"> <li>○MY WAY English Communication Ⅱ(三省堂)</li> <li>○MY WAY English Communication Ⅱ Workbook(桐原書店)</li> <li>○速読英単語 入門編(Z会)</li> </ul>			
指導到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な語句や文を用いて書かれた、興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真を参考にしながら理解することができたり、挿絵のある短い物語を理解することができる。</li> <li>○ ゆっくり明確に話されれば、身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができたり、必要な指示や説明を理解することができる。</li> <li>○ 身近なトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができたり、基本的な言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる。</li> <li>○ 前もって発話することを用意した上で、身近なトピックについて意見を言うことができたり、日常生活に関する簡単な事実を、複数の文で描写することができる。</li> <li>○ 自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができたり、趣味や好き嫌いについて複数の文章を用いて書くことができる。</li> </ul>			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の本文を利用し「読む」「書く」「聞く」「話す(やりとり)」「話す(発表)」5 領域を育成し英語を総合的に学ぶ。</li> <li>○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培う。</li> <li>○高校 1 年次で学んだ学習事項を系統的に整理しながら、高校 2 年次での学習内容へスムーズに移行できるように配慮するものとする。</li> </ul>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味や働きをおおむね理解している。 また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場面・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語でおおむね的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを粘り強く話したり書いたりしようとしたり、振り返ろうとしたりしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期考査</li> <li>○パフォーマンステスト</li> <li>○小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期考査</li> <li>○パフォーマンステスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小テスト</li> <li>○提出物</li> <li>○授業態度の観察</li> </ul>	

## 年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	Lesson 1 Dances Around the World ○SVO (O=that/what 節) /SVO (O=if/whether 節) / SVO <sub>1</sub> O <sub>2</sub> (O <sub>2</sub> =if/that/what 節) Lesson 2 Katsura Sunshine – Making the World Laugh ○形式主語の it/ 形式目的語の it① / 形式目的語の it ②	○英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。  ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。  ○そのため、授業中は英語力にかかわらず、ペア（グループ）ワークに英語を用いて意欲的かつ積極的にとらうとする姿勢が求められる。  ○分からない単語やフレーズについても辞書で調べ、次回必ず答えられるように徹底的に復習する。
	第2回	Lesson 3 Living with Nature – Takita Asuka’s Journey ○現在完了形・現在完了進行形 / 過去完了形 /過去完了進行形 Lesson 4 Sesame Street ○SVOC (V=知覚動詞、C=動詞の原形) / SVOC (V=知覚動詞、C=過去分詞) /SVOC (V=使役動詞 have/make、C=過去分詞) /help+O+動詞の原形	
	第3回	Lesson 5 From Landmines to Herbs ○関係代名詞(主格) / 前置詞+関係代名詞 /関係代名詞の非制限用法/関係副詞の非制限用法  Lesson 6 Murals – The Power of Public Art ○助動詞/ 助動詞の過去形を使った表現/ 助動詞+have+過去分詞/完了不定詞	
後 期	第4回	Lesson 7 “Englishes”in the World ○分詞構文/受け身の分詞構文/完了形の分詞構文 /付帯状況 with Lesson 8 Deepika Kurup – The Science Behind Clean Water ○仮定法過去/仮定法過去完了/if を使わない仮定法 /no matter + 疑問詞	
	第5回	Lesson 9 The World’s Poorest President ○同格を表す that 節/強調構文/倒置/省略 Lesson 10 Living in an E-Society – The Pros and Cons	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
保健体育		体育	体育		3
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		現代高等保健体育（大修館書店）			
指導到達目標		<p>○生涯にわたって運動，スポーツを継続していくために必要な技能・競技のルール・試合の進め方などを身につけることができる。</p> <p>○課題解決のために思考し，判断するとともに自己や仲間の考えたことを表現することができる。</p> <p>○仲間と競争や協働の経験を通して，互いに認め合い，高め合うことができる。</p>			
講座内容		<p>講座内容</p> <p>1 「体づくり運動」では，自己の体力や生活に応じて，体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>2 「体育理論」では，体育・スポーツに関する知識を理解できるようにし，運動の合理的な実践及び健康の増進と体力の向上に活用することができる資質や能力を身につける。</p> <p>3 選択制授業では，生徒一人ひとりに運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るよう，また自分の能力・適性・興味・関心に応じた運動の行い方や楽しみ方や学び方を計画的に工夫する力をより一層育てる。</p> <p>履修上の注意</p> <p>本校規定の体操服（柔道着），体育館シューズ，グラウンドシューズをきちんと着用し，指導教員の指示をよく聞いて，安全に留意して授業を受けること。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	種目の特性やルール，試合の進め方等を理解し，実践することができる。また，各種目に必要な技能や体力を身につけ，努力を怠らず向上させることができる。	課題を発見し，話し合い活動へ積極的に関わったり，課題解決に向けた提案を行ったりすることができる。また，自己の考えを仲間に伝えることができる。	準備や片付け，グループや集団の中での協力・競争・協働など主体的かつ積極的に学びに向かうことができる。また，健康安全に留意しながら活動を行おうとする。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 理論的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○スキルテスト ○授業観察 ○まとめプリント相互評価 など	○授業観察 ○まとめプリント記述 ○相互評価 など	○授業観察 ○選択ノート ○まとめプリント ○相互評価 など	

## 年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前    期		体づくり運動 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画	○様々な競技の特性に触れ、技能・競技のルール・試合の進め方などの知識を習得することができる。  ○仲間とともに課題解決に向けて思考し、自分の考えや思いを表現、伝えることができる。  ○授業中はグループ活動やチームでの活動も多く行うことから、仲間と競争や協働の経験を通して主体的かつ意欲的に活動を行う態度や人間力を身につけることができる。  ○生涯にわたって運動やスポーツを継続していきたいと思うような学習内容を多く取り入れて競技の特性や魅力に触れることができる。
		選択制授業前期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール ソフトボール・テニス	
		ダンス 体づくり運動	
		選択制授業中期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール ソフトボール・テニス	
後   期		体育理論	
		選択制授業後期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール サッカー・テニス	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
保健体育		保健	保健		1
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		現代高等保健体育（大修館書店） 図説現代高等保健（大修館書店）			
指導到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>○生涯の各段階で健康課題が変化することを理解するとともに、健康が保持増進される仕組みなどの知識を身につけるとともに、日常生活の中に実践できる技能を身につけることができる。</li> <li>○健康課題の発見や課題解決に向けて思考、判断するとともに自らの考えを仲間に伝え、共有することができる。</li> <li>○生涯を通じて、自他の健康の保持増進に興味、関心を持ち、心身ともに健康的な人生を送ろうとする態度を養うことができる。</li> </ul>			
講座内容		<p>講座内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「生涯を通じる健康」では、思春期から中高年期までに出会う様々な健康問題について学ぶとともに、労働と健康との関係や、働く人々の健康が保持増進される仕組みなどについて学習する。</li> <li>○「健康を支える環境づくり」では、周囲の自然環境や食品に関する健康問題を学ぶとともに、社会の制度や保健活動といった社会環境のあり方について学習する。また、社会全体の健康を高めるために、私たち一人ひとりが環境づくりに積極的に参加する意義やその方法について学習する。</li> </ul> <p>具体的な単元：「思春期と健康」「妊娠・出産と健康」「働くことと健康」 「環境と健康にかかわる対策」「食品衛生にかかわる活動」など</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	個人及び社会生活における健康・安全について理解し、その技能が身に付いている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目標や状況に応じて他者に伝えることができる力が身についている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える健康づくりを目指し、課題の解決に向けた学習づくりに主体的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 理論的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期考査</li> <li>○授業ノート・プリント</li> <li>○小テスト</li> <li>○授業観察 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業ノート・プリント</li> <li>○授業観察</li> <li>○課題学習における制作物や提出物 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提出物</li> <li>○授業ノート・プリント</li> <li>○授業観察 など</li> </ul>	



## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭(専)		生活と福祉	生活と福祉		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		生活と福祉(実教出版) 生活と福祉 学習ノート(実教出版)			
指導到達目標		<p>高齢者の健康と生活、介護などに関する実践的・体験的な学習を通して、高齢者の福祉と介護に関する知識と技術を習得し、高齢者への自立生活支援に必要な資質・能力が身につく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者の健康と生活、介護などに関する正しい知識を身につけることができる。</li> <li>○高齢者介護の基礎的な技術を身につけることができる。</li> <li>○レクリエーションの意義を理解して主体的に計画し、実践することができる。</li> <li>○自立生活支援と福祉の充実に寄与する能力と態度を身につけることができる。</li> </ul>			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者の健康と生活、介護などに関する知識・技術について学ぶ。</li> <li>○高齢者介護に必要な、ベッドメイキング・体位変換・車椅子の介助などの基本的な技術を学ぶ。</li> <li>○レクリエーションを主体的に計画し、実践する。</li> <li>○自立生活支援と福祉の充実に関する制度や介護のあり方について学ぶ。</li> </ul>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	高齢者介護に関する基礎的・基本的な理論と技術を理解して、実践することができる。	高齢者介護に関する基礎的・基本的な理論と技術を活かして、身近な問題の解決する力を身に付けている。	高齢者介護について意欲的に学習し、実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度・進度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人の一生と生活・健康 健康の概念 ライフステージと健康管理</li> <li>○高齢化の現状と高齢者の特徴 高齢者の心身と特徴と病気 高齢者の生活課題と施策</li> <li>○介護・看護の実習 検温・脈拍測定 ベッドメイキング 口腔の清潔 体位交換</li> </ul>	<p>高齢者介護と福祉に関する基礎的・基本的な理論と技術を身につけたうえで、身近な問題や課題を多様な視点から捉え、主体的かつ協働的に問題解決にむけて取り組むことができることをねらいとする。</p>
後 期	第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢化の現状と高齢者の特徴 高齢化の現状</li> <li>○高齢者の自立生活支援 自立生活支援の基本となる考え方 高齢者介護</li> <li>○レクリエーション実習 レクリエーションの意義と目的 レクリエーション実習</li> <li>○介護の実習 衣服の着脱の介護 身体の清潔の介護 車椅子の移乗・移動の介護 食事の介護</li> </ul>	
期	第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者支援の法律と制度 社会保障制度と高齢者福祉のあゆみ 介護保険制度 高齢者支援と地域包括ケアシステム</li> <li>○介護の実習 排泄の介護 脱水，熱中症，糖尿病 応急手当，心肺蘇生法</li> </ul>	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指 導 と 評 価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭 (専)		フードデザイン	フードデザイン		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		○フードデザイン 新訂版 (実教出版) ○Super Live View 家庭科 資料+食品成分表 (東京書籍)			
指導到達目標		<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>1 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>2 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>3 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			
講座内容		<p>○栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートに関する分野を学習し、食事を総合的にデザインする能力・態度を身につける。</p> <p>○調理実習については、日常食の献立に加え、供応食・行事食の調理を中心に学ぶ。</p> <p>○家庭科技術検定食物調理技術2級を受験する。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	栄養や食品、調理などの食生活全般の基本的な知識を理解しているとともに、基礎的・基本的な調理技術を身に付けている。	食生活の現状から課題を発見し、よりよい食生活を実現させるために課題を創造的に解決する力を身に付けている。	食生活の充実向上を目指すために主体的に課題解決に取り組んだり、振り返って改善したりするとともに、実習では他者と協働的に取り組む態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像 (資質・能力) との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○実習内容	○定期考査 ○ワークシート	○提出物 ○ワークシート ○授業態度の観察	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前   期	第1回	食の衛生と安全 調理実習① 調理実習②	○ 1年次に身につけた知識・技術を活用し、食生活の課題に対して、合理的かつ創造的に解決する力を養うとともに、食生活の総合的なデザインに主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	第2回	消化吸収 社会人講師(日本料理) 調理実習③  調理実習④	
	第3回	コンクール応募  調理実習⑤  食物調理 2級検定説明 献立作成・筆記対策	
後   期	第4回	食物調理 2級検定 献立作成・筆記対策 調理実習⑥ 調理実習⑦  テーブルコーディネート  食物2級実技試験	
	第5回	家政科展準備  調理実習⑧  社会人講師 (テーブルコーディネート)	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
国語		古典探究	古典探究		2
履修学科	履修年次	期	履修形態		
家政科	2	通期	選択		
履修条件	2・3年次継続履修				
教材名・副教材名	精選 古典探究 古文編（東京書籍） 精選 古典探究 漢文編（東京書籍） 新修 古典文法（京都書房） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）				
指導到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 1.生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 2.論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 3.言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
講座内容	○古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○古典の作品や文章の種類やその特徴、構成や展開の仕方、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。 ○作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。				
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	説話1 (古文) 小話 (漢文) 歌物語 (古文) 詩1 (漢文) 随筆1 (古文)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○説話を読み展開や内容のおもしろさを味わう。</li> <li>○話の展開や内容のおもしろさを味わう。</li> <li>○作品中の和歌が持つ意味に着目し、歌物語の特色を理解する。</li> <li>○漢詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。</li> <li>○随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉える。</li> <li>○『史記』を読み、歴史上の人物の行動や心情について考える。</li> <li>○朗読などを通して、軍記物語の内容や表現の特色への理解を深める。</li> <li>○儒家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。</li> <li>○発想や表現の特色を理解し、小説のおもしろさを味わう。</li> <li>○日記を読み、作者の境遇や出来事を的確に捉える。</li> <li>○作り物語の内容を的確に読み取り、登場人物の行動や心情を捉える。</li> <li>○詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わう。</li> <li>○作品の特色に注意しながら、歴史物語の内容を的確に読み取る。</li> <li>○道家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。</li> <li>○文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉える。</li> </ul>
	第2回	史記1 (漢文) 軍記物語 (古文) 思想1 (漢文) 小説1 (漢文) 日記1 (古文)	
	第3回		
後 期	第4回	作り物語1 (古文) 詩2 (漢文) 歴史物語1 (古文) 思想2 (漢文) 文1 (漢文)	
	第5回		

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
国語		国語表現	国語表現		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	選択	
履修条件		2・3年次継続履修			
教材名・副教材名		国語表現 改訂版（大修館書店） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
指導到達目標		<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会に必要な国語の知識・技能を身につけるようにする。</li> <li>2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</li> <li>3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ol>			
講座内容		<p>○自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>○目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する力を培う。</p> <p>○相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫する力を身につける。</p> <p>○社会的な話題や自己の将来などを題材に、自分の思いや考えについて、的確な表現や語句を用いて書く能力を育成する。</p> <p>○自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」「読むこと」の各領域において、社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、効果的に使おうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○定期考査</li> <li>○ワークシート</li> <li>○課題の点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○定期考査</li> <li>○ワークシート</li> <li>○発表態度の観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○ワークシート</li> <li>○発表態度の観察</li> </ul>	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	1 書いて伝える 2 小論文・レポート入門 3 自己PRと面接	○わかりやすく読みやすい、整った文章を書く力を身につける。絵や写真をもとに、相手に正確に伝わる文章を書く力を見につける。 ○情報を収集・分析し、自分の考えを深め、それを効果的に伝えられるよう、論理の構成、文体などについて学ぶ。 ○自分の過去や現在を見つめ、将来に向けての展望をもつ。自分の長を他者に的確に伝える力を身につける。 ○メディアによる特性・特徴の違いについて理解する相手や目的に応じてメディアを選択し、効果的に表現する。 ○目的に応じて情報を整理し、内容や表現のしかたを工夫して話したり聞いたりする。聞くことを通じて表現のしかたの工夫について理解し、自らの表現に役立てる。 ○場に応じた適切な表現や、目的に応じた効果的な表現を意識して、話したり聞いたりする。相手の考えを尊重しながら自らの考えを主張し、論拠の妥当性を判断しながら話し合う。
	第2回		
	第3回		
後 期	第4回	4 メディアを駆使する 5 声とコミュニケーション 6 会話・議論・発表	
	第5回		

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
数学		数学 A	数学 A		1
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		新高校の数学 A (数研出版) ポイントノート数学 A (数研出版)			
指導到達目標		場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
講座内容		1 「場合の数と確率」 順列・組合せや確率を学習し、不確定な事象を数量的にとらえて考察し、処理できるようにする。 2 「図形の性質」 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、平面図形の性質を論理的に考察し処理できるようにし、空間図形の位置関係を捉えられるようにする。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○場合の数と確率、図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	○不確実な事象に着目し確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の構成要素間の関係などに着目し図形の性質を見だし、論理的に考察する力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前	第1回	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合 2. 集合と要素の個数 3. 和の法則と積の法則	○場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第2回	4. 順列 5. 組合せ	
期	第3回	第2節 確率 5. 事象と確率 6. 確率の計算 7. 独立な試行と確率	○確率の意味と確率を求めるときの基本的な法則や考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
後	第4回	8. 条件付き確率 9. 期待値	○平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第5回	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1. 図形の基本 2. 角の二等分線と線分の比 3. 三角形の外心, 内心, 重心	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
国語		現代語入門	国語表現		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	選択	
履修条件		2・3年次継続履修			
教材名・副教材名		パスポート国語必携 国語常識の演習と確認（桐原書店） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
指導到達目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 1. 実社会に必要な国語の知識・技能を身につけるようにする。 2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
講座内容		○自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増やし、語句の意味、用法を理解することを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する力を培う。 ○文章や文の組み立て、語句の働き、表記の仕方など、国語を的確に理解し適切に表現するために必要な言語の知識・技能を身につける。 ○漢字や漢語の特質を理解し、常用漢字の読み書きに習熟し、的確な語句や表現を用いて書く能力を育成する。 ○現代の国語の成り立ちや特質、言語の役割などについて理解を深める。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」「読むこと」の各領域において、社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、効果的に使おうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○ワークシート ○課題の点検	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	ア 漢字 (ア) 漢字の読み書き ①常用漢字 ②同音語・同訓語 ③対義語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字や漢語の特質を理解し、常用漢字の読み書きに習熟し、的確な語句や表現を用いて書く能力を身につける。</li> <li>○語句の意味、用法を理解することを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</li> <li>○語句の知識を活用して、文章や文の組み立て、語句の働きなどを身につける。</li> <li>○現代の国語の成り立ちや特質、言語の役割などについて理解を深める。</li> </ul>
	第2回	④類義語 ⑤漢語            など	
	第3回	イ 語句 (イ) 語句 ①慣用語 ②ことわざ ③故事成語 ④熟語 ⑤現代用語・カタカナ語 ⑥表記            など	
後 期	第4回	ウ 文章中の語句 (ウ) 語句の知識の活用 ①文章中の語句 ②語句を適切に使った文章表現    など	
	第5回		

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
理科		化学基礎	化学基礎		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	選択	
履修条件		欠課時数が授業時数の1/2を超えないこと。			
教材名・副教材名		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新編 化学基礎 (数研出版)</li> <li>○ 新編 化学基礎 準拠 整理ノート (数研出版)</li> </ul>			
指導到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</li> <li>○ 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</li> <li>○ 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</li> </ul>			
講座内容		I 化学と人間生活 1 化学とは何か      2 物質の成分と構成元素 II 物質の構成 1 原子の構造と元素の周期表      2 化学結合 III 物質の変化 1 物質と化学反応式      2 酸と塩基      3 酸化還元反応      4 化学が拓く世界			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	化学と物質についての実験などを通して、化学の特徴について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学の特徴について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	化学の特徴に関する事象・現象について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定期考査</li> <li>○ 観察・実験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定期考査</li> <li>○ 観察・実験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小テスト</li> <li>○ 課題</li> </ul>	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
通 期	第2回	I 化学と人間生活 1 化学とは何か 2 物質の成分と構成元素	○ 化学と物質について、化学の特徴を理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。 ○ 化学と物質について、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と三態のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。
	第4回	II 物質の構成 1 原子の構造と元素の周期表	○ 物質の構成粒子について、原子の構造、電子配置と周期表のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。
	第5回	2 化学結合	○ 物質と化学結合について、イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
理科		生物基礎	生物基礎		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		i 版 生物基礎 (啓林館) Navi&トレーニング 新訂版 生物基礎 (啓林館)			
指導到達目標		日常生活や社会と関連を図りながら、生物や生物現象について理解すると共に、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付ける。また、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。			
講座内容		<p>第1部 生物の特徴 生物の多様性と共通性について理解し、その共通性が共通の起源をもつことに由来することを学習する。</p> <p>第2部 遺伝子とそのはたらき 遺伝子の本体である DNA について、構造およびそのはたらきについて理解し、細胞に正確に複製されて受け継がれていくことを学習する。</p> <p>第3部 ヒトの体内環境の維持 多細胞生物において、体内環境がいかにして一定に保たれているかを理解する。さらに、そのしくみとして、循環系・自律神経系と内分泌系・免疫を学習する。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。</li> <li>○生物に関する概念や法則を理解し、問題を解くことができる。</li> <li>○実験器具の使い方や方法を理解し、創意工夫を凝らし実験を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、式や法則を見出すことができる。</li> <li>○実験結果をデータや式、グラフにまとめ、自分の考えを述べることができる。また、データやグラフを解析し、法則性や関係を見出すことができる。</li> </ul>	○身のまわりの疑問を見つけ、それがどのように引きおこされるかを問い、探求していく態度が身についている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像 (資質・能力) との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期考査</li> <li>○実験書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期考査</li> <li>○実験書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業にのぞむ姿勢</li> <li>○授業ノート</li> <li>○課題</li> </ul>	

## 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1部 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性	生物の特徴について、その特徴、遺伝子とその働きを理解すると共に、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。
	第2回	第2部 エネルギーと代謝 1章 呼吸と光合成	細胞内でのさまざまな化学反応によって生命活動が成り立っていることを理解し、そのために非常に多くの酵素が必要であることなどを理解する。 生命活動に必要なエネルギーの獲得にかかわる光合成と呼吸について学習する。
	第3回	第2部 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 2章 遺伝情報の複製と分配	DNAが基本骨格を理解し、塩基配列が遺伝情報になっていることを理解する。 すべての細胞は核をもっており、体細胞分裂によってDNAが正確に複製されることを理解する。
後 期	第4回	3章 遺伝情報の発現	DNAの塩基配列がアミノ酸配列に置き換わり、アミノ酸が結合してタンパク質が合成されることを理解する。
		第3部 ヒトの体内環境の維持 1章 体内での情報伝達と調節	体内環境＝体液であることを理解し、この環境を一定に保つために各器官が自律神経やホルモンによって調節されていることを理解する。
	第5回	2章 体内環境の維持のしくみ	体内環境の調節として「血糖調節」を取り上げ、理解する。

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指 導 と 評 価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
芸術		音楽Ⅱ	音楽Ⅱ		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		MOUSA 2 (教育芸術社)			
指導到達目標		<p>○曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>○個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができる。</p> <p>○主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養うことができる。</p>			
講座内容		<p>○歌唱においては、斉唱・混声3部合唱。</p> <p>○器楽ではギター、箏を使用する。</p> <p>○鑑賞では、CD・DVD・楽器実演奏等を用いる。</p> <p>年間を通して音楽の幅広い知識を身につける。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、関わりについて考えるとともに、どのように音楽をつくりあげるかについて独自の表現意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○振り返りシート</li> <li>○小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○鑑賞課題</li> <li>○振り返りシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○発表態度の観察</li> <li>○鑑賞課題</li> <li>○振り返りシート</li> </ul>	



## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
芸術		美術Ⅱ	美術Ⅱ		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	選択	
履修条件		美術Ⅰを履修済み			
教材名・副教材名		美術Ⅱ			
指導到達目標		<p>○絵画・デザイン・映像メディアなど、美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、表現する能力を伸ばすとともに、美術を愛好する心情を養う。</p> <p>○課題の導入として鑑賞活動を、課題の終わりに生徒作品の相互鑑賞やプレゼンテーションを取り入れ、様々なものに触れあう機会を作り、感じたことや思ったことを言葉にまとめる力を身につける。</p>			
講座内容		<p>○アイディアスケッチ等を活用し、自分の考えや表現したいイメージを整理したり、より深く追求したりしていく。</p> <p>○教科書に掲載されている作品を鑑賞し、その特徴や表現方法を学びながら、創造活動の幅を広げる。</p> <p>○作品完成後にお互いの作品を鑑賞し、表現の違いや良さについて考える。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<p>○表現および鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方について理解を深める。</p> <p>○教材や用具の特性を生かして、自分の意図に応じて表現方法を工夫し、創造活動を行うことができる。</p>	<p>○アイディアスケッチで自分の思いや考えをまとめることができている。</p> <p>○授業を振り返り、感じたことや学んだことをまとめることができる。</p>	<p>○他者の考え方を尊重しながら自分の意見や考えを持ち、作品に反映しようとしている。</p> <p>○感じたことや考えていることを自分の言葉でまとめている。</p>	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		<p>○幅広い教養</p> <p>○高度な技術</p>	<p>○情報を分析し表現する力</p> <p>○論理的・多面的に思考する力</p> <p>○受容する力・対話する力</p>	<p>○協働する力</p> <p>○やり抜く力</p>	
評価方法		<p>○授業態度の観察</p> <p>○提出作品</p>	<p>○授業態度の観察</p> <p>○ワークシート</p> <p>○振り返りシート</p> <p>○アイディアスケッチ</p>	<p>○授業態度の観察</p> <p>○ワークシート</p> <p>○振り返りシート</p> <p>○アイディアスケッチ</p>	



## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
芸術		書道Ⅱ	書道Ⅱ		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		書Ⅱ（教育図書）			
指導到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>○楷書・行書・仮名の書用の筆法・運筆法を身につけ、それぞれの書体の持つ美しさを感じることができるようにする。</li> <li>○臨書で培った筆法により、創作の中で自分の心象風景を表現できるようにする。</li> <li>○古今の名作や他の生徒の作品を鑑賞する中で、自分の考えや感じたことを話せるようにする。</li> <li>○様々な書活動を通じて生涯にわたり書を愛好する心情を養う。</li> </ul>			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>○書道Ⅰの内容をふまえ、書写からより芸術的書道の内容に深く入っていく。</li> <li>○おもに創作を中心に書きたい語句を選択し、美しく表現した上で、作品として鑑賞できるよう、表具も仕上げる。</li> </ul>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	書の表現の方法や形式、多様性などについて理解している。 書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりする。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○作品の評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○作品の評価</li> <li>○鑑賞課題の点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○発表態度の観察</li> <li>○鑑賞課題の点検</li> </ul>	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前   期		楷書	○様々な楷書を比較することで表現の多様性を理解し、作品制作に活用することができるようにする。
		行書	○様々な行書を比較することで表現の多様性を理解し、作品制作に活用することができるようにする。
		漢字仮名交じりの書	○表現と用具・用材との関係を理解し、漢字と仮名の調和した線質の表し方、字形や文字の大きさと全体構成の表し方を工夫し、意図に基づく表現ができるようにする。
後   期		刻字	○漢字仮名交じりの書を立体化することによる刻線のよさや美しさを理解し、表現を工夫することができるようにする。
		写経	○用具・用材の特徴や扱い方、小筆の用筆法・運筆法を理解し表現できるようにする。
		仮名の書	○仮名の点画や線質の表し方と用筆法・運筆法を理解し表現できるようにする。 ○単体・連綿と全体の構成を考え、意図に基づく表現の構想と工夫ができるようにする。

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
外国語		エッセイライティング I	エッセイライティング I		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		Active Writing Complete Course (第一学習社) 速読英単語 必修編 (Z会)			
指導到達目標		○日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。			
講座内容		○日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、ニュースや新聞記事などを聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	自分の意見を、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えるために必要となる語句や表現を理解している。	日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えている。	日常的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○パフォーマンステスト ○小テスト	○パフォーマンステスト	○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	Stage 1 文法・構文の「型」をインプットする Lesson 1 主語の決定 Lesson 2 数の表現, 主語と動詞の一致 Lesson 3 時制の感覚 Lesson 4 受動態の使いどころ Lesson 5 関係詞と同格のthat	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の意見を, 論理の構成や展開を工夫して書いて伝えるために必要となる語句や表現を正しく理解させる。</li> <li>○日常的な話題や社会的な話題について, 情報や考え, 気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる力を養う。</li> <li>○授業中はペアやグループでの活動において, 英語で意欲的かつ積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を養う。</li> </ul>
	第2回	Lesson 6 論理展開を示す表現 (接続詞・副詞・前置詞) Lesson 7 比較・仮定法の重要表現  Stage 2 トピックごとの表現をインプットする Lesson 8 自然環境 (気候・天候, 資源) Lesson 9 社会生活 (社会問題, ニュース, 交通) Lesson 10 日常生活 (余暇, 健康・医療)	
	第3回	Lesson 11 文化 (言語, 学校教育, 異文化) Lesson 12 科学技術 (エネルギー, 情報技術)  Stage 3 長めの英作文 Lesson 13 論説文の一部を英訳する① Lesson 14 論説文の一部を英訳する② Lesson 15 会話や物語文の一部を英訳する	
後 期	第4回	Stage 4 自由英作文 Lesson 16 自分の意見を論述する① Lesson 17 自分の意見を論述する② Lesson 18 自分の意見を論述する③	
	第5回	Lesson 19 会話や手紙を創作する Lesson 20 表やグラフについて記述する Lesson 21 イラストなどで描写する	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭(専)		食品	食品		4
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		○食品と栄養の特性(社団法人 全国調理師養成施設協議会)			
指導到達目標		<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、多様化する食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>食品の分類とその特徴、食品の機能、食品の表示、食品の加工と貯蔵などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとする。</li> <li>食生活の現状から食品に関する課題を発見し、食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</li> <li>適切な食品の選択や活用の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ol>			
講座内容		<p>○代表的な食品の栄養的特徴、調理上の性質、利用法などについて実習・実験をとおして学習する。</p> <p>○食品の加工については、目的、方法、成分の変化を、食品の貯蔵については、代表的な貯蔵の方法の原理と特徴の概要を学習する。</p> <p>○食品を使用したコンクールやコンテストに応募する。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	食品の分類とその特徴、食品の機能、食品の表示、食品の加工と貯蔵などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	食生活の現状から食品に関する課題を発見し、食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	適切な食品の選択や活用の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○実習内容	○定期考査 ○ワークシート	○提出物 ○ワークシート ○授業態度の観察	

# 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前   期	第1回	食品学とは  穀類  いも及びでん粉類  砂糖及び甘味類	○食品の特徴や機能、表示について実習・実験をとおして体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付けるとともに、適切な食品の選択や活用の面から食生活の充実向上を目指して自ら学ぶ態度を養う。
	第2回	豆類  種実類  野菜類  果物類	
	第3回	コンクール作品応募 コンテスト作品応募  きのこ類  藻類	
後   期	第4回	魚介類  肉類  卵類  家政科展準備	
	第5回	乳類  油脂類  香辛料  食品の表示	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭(専)		保育実践	保育実践		4
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		保育実践(実教出版) 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開(萌文書林)			
指導到達目標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通じ、保育を担う職業人として必要な資質・能力を育む。			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>○子供の表現活動と保育</li> <li>○子育て支援と保育</li> <li>○保育の活動計画</li> </ul>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。	保育や子育て支援に関する課題を発見し、子供を取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決することができる。	保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期考査</li> <li>○確認テスト</li> <li>○実技テスト</li> <li>○作品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期考査</li> <li>○ワークシート</li> <li>○振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシート</li> <li>○振り返り</li> <li>○授業態度の観察</li> </ul>	

## 年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前   期	第3回	子供の表現活動の面白さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育における子供の表現活動の意義と重要性を理解する。</li> <li>○子供の表現活動に関連する技術が身につけ、工夫できるようになる。</li> <li>○子供の造形・描画表現が、子供の創造性を育てる上で重要な活動であることを理解する。また、様々な素材を用いた壁面構成の技術を身につける</li> <li>○子供の想像力と思考力を高める活動であることを理解し、言葉やイメージが豊かになるよう援助方法を知る。</li> <li>○エプロンシアターについて理解し、実際に作る。</li> <li>○音楽・身体表現の重要性を理解し、子供が音楽に親しみ、歌を歌ったり、リズム楽器を使ったりするなどの技術を身につける</li> </ul>
		造形表現活動	
		言語表現活動	
後   期	第4回	情報手段などを活用した活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テレビやビデオなど身近な事例を通じ、子供の発達や心身への影響を十分に考慮する大切さを理解し、情報手段を保育にどう活用できるかを、考える。</li> <li>○表現活動に関わる内容を、保育や子育て支援の実践においてどう生かすことができるかを考える。</li> <li>○少子化や育児不安、孤立感など、子供と家族を取り巻く社会や環境の様々な変化に伴う諸問題から、子育て支援の意義と役割について理解する。</li> </ul>
		表現活動の実際	
		子供・子育ての問題	
後   期	第5回	子育て支援のための各種施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な地域の子育て支援関連施設の役割について理解する。</li> <li>○具体的に各施設においてどのような支援を行っているかを理解する</li> <li>○保育所や認定こども園など、保育施設に入所している子供の保護者を対象とする子育て支援の意義と役割について理解する。</li> <li>○各保育施設における活動を想定し、どういった活動ができるのか部分的な計画を作成することが出来る。</li> </ul>
		子育て支援の実際	
		保育の活動計画	

\* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭(専)		ファッション造形	ファッション造形		4
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		ファッション造形(実教出版) 家庭科問題集 被服編			
指導到達目標		<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通してファッション製品の創造的な製作を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>1 デザインや着用目的に応じたより高度なファッション造形について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>2 ファッション造形に関する課題を発見し、ファッション製品製作を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>3 衣生活の充実向上と創造性豊かな作品の製作を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>○立体裁断と平面製図の特徴や方法について基本的な知識・技術を学ぶ。</li> <li>○被服材料の種類や特徴を知り、適切な選択と取り扱いについて学ぶ。</li> <li>○セミタイトスカートや幼児服の製作を通して、洋服の製作に関する理論と技術を学ぶ。</li> <li>○ファッションを表現する課程を具体的な作品製作を通して学ぶ。</li> </ul>			
評価の観点		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	被服製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を理解して、製作することができる。	被服製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を活かして、製作に向けて考察している。	被服製作において計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度・進度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	



## 指 導 と 評 価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭 (専)		和服と伝統文化	和服と伝統文化		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		ファッション造形基礎 (実教出版) 家庭科問題集 被服編			
指導到達目標		<p>日本や世界の服飾の変遷と文化，着装などに関する実践的・体験的な学習を通して，知識と技術を習得し、服飾文化の伝承と創造に寄与するために必要な資質・能力が身につく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○被服の基本型、服飾の変遷を知り、被服と文化の関係、人間の生活と被服とのかかわりについて理解する。</li> <li>○和裁の基礎的な技術を身につけることができる。</li> <li>○社会生活上の着装のマナーを知り，実践することができる。</li> <li>○身につけた知識や技術を組み合わせながら多様な視点から創意工夫していく能力を身につけることができる。</li> </ul>			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本や世界の服飾の変遷と文化，着装などに関する知識・技術について学ぶ。</li> <li>○和裁の基礎的な技術を学ぶ。</li> <li>○社会生活上の着装のマナーを知り，実践する。</li> <li>○身につけた知識や技術を組み合わせながら多様な視点から創意工夫する姿勢を身につける。</li> </ul>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	和服の変遷を知り、被服と文化の関係、人間の生活と被服とのかかわりについて正しく理解している。 和裁の基礎的な技術を身につけることができる。	社会生活上の着装のマナーを知り身に付けている。	和服と伝統文化について意欲的に学習し，実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度・進度の観察</li> <li>○課題の点検</li> <li>○定期考査</li> </ul>	



## 指 導 と 評 価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
福祉(専)		社会福祉基礎	社会福祉基礎		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通年	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		実教出版「社会福祉基礎」			
指導到達目標		<p>福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</li> <li>2 社会福祉の展望に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</li> <li>3 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、社会福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ol>			
講座内容		<p>○現代社会と社会福祉のかかわり、社会福祉の理念と意義について理解する。          ○欧米諸国や日本の社会福祉の歴史について学習する。          ○社会福祉分野の現状と課題について学習する。          主な項目：公的扶助の現状と課題、児童家庭福祉の現状と課題、障害者福祉の現状と課題、地域福祉の現状と課題</p>			
評価の観点		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	福祉に関する基礎的・基本的な理論と技術を理解して、実践することができる。	福祉に関する基礎的・基本的な理論と技術を活かして、身近な問題の解決する力を身に付けている。	福祉について意欲的に学習し、実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度・進度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	



## 指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭(専)		住生活デザイン	住生活デザイン		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2年次	通年	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		リビングデザイン(実教出版)			
指導到達目標		<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、豊かな住生活の実現を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)住生活と文化、住空間の構成と計画、インテリアデザインなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとする。</p> <p>(2)快適な住空間の計画やインテリアデザインに関する課題を発見し、豊かな住生活の実現を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3)豊かな住生活の実現を目指して自ら学び、住空間のデザインに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			
講座内容		<p>特徴的な住居様式や生活様式と住居とのかかわり、健康で安全な住環境など生活と住生活について学習する。さらに、動線、間取り、平面表示記号など住空間の形態と構成について基礎的な知識を習得し、住居の平面計画の実習、インテリアデザイン実習を行う。</p> <p>① 住生活と文化 ② 住空間の構成と計画 ③ インテリアデザイン ④ 福祉住環境と室内計画 ⑤ 住生活関連法規</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	住生活全般の基本的な知識を理解しているとともに、基礎的・基本的な技術を身に付けている。	住生活の現状から課題を発見し、よりよい住生活を実現させるために課題を創造的に解決する力を身に付けている。	住生活の充実向上を目指すために主体的に課題解決に取り組んだり、振り返って改善したりするとともに、実習では他者と協働的に取り組む態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		定期考査 実習内容 作品完成度 調べ学習	定期考査 ワークシート 課題発表 レポート	提出物 出席状況 ワークシート 授業態度の観察	



## 指 導 と 評 価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭 (専)		課題研究	課題研究		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
家政科		2	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		家庭科問題集 被服編 (公共財団法人 全国高等学校家庭科教育振興会) 日本語ワープロ検定試験問題集 (日本情報処理検定協会)			
指導到達目標		<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上や、社会を支え生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。</li> <li>生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</li> <li>課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ol>			
講座内容		家庭科技術検定被服製作 (洋服) ・ (和服) ・日本語ワープロ検定試験より、2つ選択し受検する。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像 (資質・能力) との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○実習内容 ○課題の点検 ○作品	○授業態度の観察 ○課題の点検	○授業態度の観察 ○課題の点検	

